

大阪府立千里青雲高等学校 第3回学校協議会 議事録

- 日 時 平成 29 年 2 月 3 日(金) 15:30～17:00
- 出席者 委員長(学識経験者)、学識経験者(高大連携大学)、保護者代表、
地域住民代表者、その他学校関係団体代表者
事務局(校長、教頭、事務長、首席、教育グループ長、進路指導グループ長、生徒指導グループ長)
- 内 容
- 1 校長挨拶
 - 2 委員長挨拶
 - 3 学校報告
 - ア) *学校協議会への意見書の提出
平成 28 年 4 月 1 日より平成 29 年 2 月 2 日まで なし
 - イ) 教育グループ 後期活動報告(乳幼児交流等)
 - ウ) 教務グループ 11 期生カリキュラムの変更点について
 - エ) 進路グループ 8 期生の進路決定状況
 - オ) 生徒指導グループ 遅刻数統計について
 - カ) 学校経営計画および学校評価について
 - キ) 授業アンケートについて
 - ク) 学校教育自己診断の結果報告
 - ケ) 共生推進教室 進路報告
 - コ) 広報委員会 学校説明会等の報告
 - 4 意見交換
 - 5 校長謝辞
 - 6 諸連絡
-

<意見交換> ○は委員からのコメント ⇒は事務局のコメント

○学校教育自己診断のデータ分析について、1 年生であった生徒は次年度は 2 年生になっているわけで、そういうデータの見方をすると新たな傾向も見えてくる。授業評価について、3 年の変化を見ると着実によくなっていて、とてもよいと思う。

○ノークラブデーを実施されていると思うが、クラブのない日は自分で外部の練習に行っていたりする。本人が決めることなので気にしていないが、他のクラブはクラブの休みの日はどうなっているのか。

⇒普段は 1 時間 30 分から 2 時間程度の練習なので、土日については半日単位の練習が多くなる。土日試合があった場合などは月曜を休みにし、週 1 回の休みは確保するようにしている。勝つことへの意識の高いクラブ員は夜間の練習などに行っているかもしれないが、本人と保護者の間で考えて決めてもらえればよいと考えている。

○学校教育自己診断の生徒の「教え方に工夫をしている先生が多い」は60%台なので、もう少し増えればと思う。「相談する場所」についても、もう少し認識され、高い数値になればよいと思う。個人的な相談の場が増えればよいと思う。

○生徒の相談の対応はどうなっていますか

⇒相談室があり、相談室だよりを出して、生徒に定期的に知らせているが、生徒は顧問や担任、保健室などに相談するケースが多い。この問いについて、生徒は相談する「場所」があるかどうかにかかわっているように感じる。

○クラブは練習時間をもう少しとって、少しきつい練習でもよいのではないか。先生の負担も大変だとは思いますが、クラブの練習中、顧問はついていないといけないのか。

⇒平日はずっと練習に付き添えない日もあるが、土日は緊急対応もあるのでずっと付き添っている。

⇒教員の長時間勤務の問題もあるので、現在の時間の中で密度の濃い練習をするということに対応していくことになると思う。

○たとえば、後援会の方でクラブ付添いの費用を負担するなど、何か手立てがあってもよいと思う。

○ダンス部はとても活発であったように思う。クラブの成績が全体的にもう少しよくなればよいと思う。

⇒生徒の質が変わってきていることもあるが、ベスト16、近畿大会など活躍しているクラブもある。今年はバドミントン部など。顧問もしっかりレベルを求めていきたいが、3～4年の流れの中で、今は進学の方へ学校の動きが流れて行っていると思う。

○「授業が解りやすいと言っている」という保護者の回答が他の項目への回答に比べて、やや肯定率が低いように思う。

⇒家でも親子で授業のことについて話題にしてもらえるよう授業づくりをしていきたい。実験や実習をしたりして体験的に学ぶ授業もある。豚の目の解剖のような、刺激的なものもある。座学も工夫されたものが多くなってきた。そのためにも授業見学をして、いいものを自分のものにしてほしい。

○授業見学の方法として、5～6人のグループを作り、その中で互いに見に行くという方法も効果があるので試してみられてはと思う。

⇒初任者の授業は毎年公開しているが、その時にはその教科の教員を中心として、多くの教員が見学し、その後の研究協議でも意見が活発に交わされ、今年度も大変充実したものになった。授業見学した後、それをどのように深めていくかが大切だと思う。その仕組みを作っていきたいと考えている。

○進路実績について、結果が出ている。遅刻数についても朝の良い取り組みがされているので大幅に遅刻が減り、良い結果につながっていると思う。

乳幼児の交流については、とてもよい取り組みなので、もう少し全体的に生徒が子供と触れ合え

るようなものになるとよいのではないかと思います。乳幼児は同じこどもが来ているのですか。
⇒同じ親子の方が参加していただくことになっているので、この取り組みを通じて子どもの成長を
みることができるようになっている。

○豊中の「いぶき」(公共施設の名称)でもボランティア活動をやっている。東北大震災のボランテ
ィアをやっていて、初めは物資や人が必要であったが5年間の振り返りをして、震災後の後片付
けだけでなく交流が大切だということに気づかされた。西丘こども園との防災についての交流は、
高校生だからこそできているのかもしれない。地域と学校をつなぐことができればとてもよいと
考えており、今後、そのような活動をしていきたいと思っている。

○千里青雲は高い教育効果をあげておられると思う。外部人材の登用や研修についてもいろいろな
ことをされていて成果として表れていると思う。朝学も学力の向上につながっていると思うし、
エビデンスのある教育実践をされている。

○進路について、大学はAOや推薦の合格者数を減らす傾向にあるので、AO、推薦による数値は
気にせず、2、3月の一般入試までがんばらせてあげてほしい。

○保護者アンケートの評価の高いところ(信頼できる友だちがいる、生命を大切にする心や社会ル
ールを守る態度を養う、共生推進、災害対応)は、大切なところを学校としてメッセージで伝え
られていることの表れだと思う。

○「教員の指導に対して納得できる」という項目の数値が少し低いように思うが。

○青年心理的には「はいはい」と人の話を聞いている方がおかしいのでこれでよいのではないか。
⇒いくつかの学校の診断結果と比較してみると、やはり本校は低い結果となっている。生徒に意見
を求め、改善すべき点を理解し改善をすすめているので、少しずつではあるがよくなってきてい
る。

○経年変化で見るとはよいことである。

○ある小学校のスローガンですが「笑顔の登校、満足の下校」というものがある。高校でも生徒が
学校生活に満足し、充実した学校生活を送れる場であることはとても大切なことであると思う。